

令和7年度 潮来市総合教育会議 議事録

○日 時 令和7年12月23日(火)午後2時30分から

○場 所 潮来市役所3階 第一會議室

○出席者

潮来市長	原 浩道
潮来市教育委員会 教育長	塙 誠一
同 教育長職務代理者	小松崎 修平
同 教育委員	茂木 悅男
同 教育委員	飯島 富士子
教育部局 教育部長	吉川 増夫
学校教育指導室長	大里 俊一
学校教育課 課長	永山 由治
生涯学習課 課長	大崎 優一
学校教育課 課長補佐	泉 昭彦
学校給食センター長	大塚 浩行
事務局 市長公室長兼総務部長	榎原 徹
企画政策課 課長	河瀬 由香
企画政策課 課長補佐	仲澤 智哉
企画政策課 主幹	栗山 将幸
企画政策課 主幹	小杉 翼

○次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 議題
 - ① 令和7年度潮来市主要事業の実施状況について
 - ② 小中学校の適正化について
 - ③ 学力向上について
 - ④ 教員の働き方改革について
4. その他
5. 閉会

○会議要旨

1. 開会

企画政策課 課長補佐

2. あいさつ

原市長

3. 議題 ①令和7年度潮来市主要事業の実施状況について（説明）

事務局より説明

3. 議題 ①令和7年度潮来市主要事業の実施状況について（意見交換）

【市長】

本市では、各分野にわたり様々な施策を進めております。教育分野においては、学校統合や部活動の地域展開など、教育環境が大きく変わろうとしております。

先日の総合計画等有識者会議では、委員の方から、学校統合によって教育環境の充実が期待されるとの意見がございました。この後にも、学校統合や学力向上の取り組みについての議題がございますが、事務局の説明についてご意見などをいただきたいと思います。

【教育委員】

学校訪問の際、子どもたちの学校での様子を見せていただいたことがありました。子どもたちは落ち着いて生活し、授業にも集中して取り組んでいる様子が見られ、全体として良い方向に進んでいると感じました。

学力面では、一部目標未達成の部分があるとはいうものの、学校評価の項目において「学校が楽しい」との回答割合が非常に多い状況となっております。これが子どもたちの学力向上をはじめ、学校生活の基盤になるところであると考えますので、今後もその良い流れが続くことを期待しています。

【教育委員】

令和5年度、6年度の学力診断結果について、県平均を上回らない学年・教科があるということですが、学校ごとに差があるのか伺います。

【教育部局】

子どもたち一人ひとりの状況によっても変わってきますので、一概にこの学校がと言えないところもございますが、各学校では、実態に応じて学力向上に取り組んでいただいております。また、「学校が楽しい」と感じる児童生徒の割合は、全国や県を上回っている状況ですので、今後も、「楽しさ」を基盤として学力向上に取り組んでいきたいと考えております。

【 教育委員 】

学力テストは、学校間の優劣や教師の評価を目的とするものではなく、子どもたちの学力上の不足を把握したうえで、教育委員会や学校が、子どもたちのために必要な支援や対策を講じるためのものだと考えます。例えば、他の学校と比べて少し数学の点数が低い学校があった場合、数学の先生を新たに配置したり、教材を充実させるなど、前向きに補強策を講じていくことが重要ですし、そういったところは我々も考えていきたいなと思っております。

【 教育委員 】

学校訪問の際に、授業の様子も見せていただきました。授業内容は濃く、充実したものでした。かつて自分が教員だった頃と比べても、限られた時間の中で工夫された授業が行われており、先生方や教育委員会の職員の努力があってのことだろうなと思います。

また、フィリピンのダナオ市との国際交流都市締結など、市全体、教育委員会全体で成果向上に取り組んでいることもとても良いと思います。

最近のテレビ報道で気になるのは、保護者からの過剰な連絡や家庭への押しかけなどにより、精神的に追い詰められてしまう教職員が増えていることが大きな問題として取り上げられていたことです。潮来市ではどのような状況なのかなと思いました。

教育現場は、教職員の心身の健康によって支えられており、良好な教育環境のためにも健康は非常に大切です。インフルエンザは随分落ち着いてきたと伺いましたが、子どもたちの健康についても心配しております。

【 教育長 】

現在、療養休暇を取得している先生は 1 名いらっしゃいます。精神的な理由によるものではないということで、年度末には復帰予定となっております。

インフルエンザについては、先週までは 1 校で 2 学級が学級閉鎖となっていましたが、今週はすべての学校で通常授業が再開されております。

【 教育委員 】

コロナ禍では、うがいや手洗いなどの衛生対策が徹底された結果、インフルエンザの発生が抑えられたという話も聞きました。こうした衛生指導や環境整備をしっかりと行えば、子どもたちの健康を守ることができますので、よろしくお願いします。

【 市長 】

テレビで報道されていたような保護者から先生へのクレームなどについて、そういった事案を教育委員会のほうで把握しているのでしょうか。

【 教育長 】

長時間にわたるクレームの電話が学校にかかるなど、いわゆるカスタマーハラスメント事案は発生しております。昨年は、校長室に 1 時間から 2 時間居座るようなケースもあ

り、教育委員会の指導室のほうで校長に代わって対応するなど、学校の負担軽減を図っております。今年度も少數ながら同様のカスハラ事案が発生しており、現在、指導室で対応している案件もございます。まず学校を守るという姿勢で引き継ぎ対応していく方針です。

【市長】

ここから先はもう学校で扱う案件ではないというような、明確な基準やマニュアルを作成していく必要があると思います。常習的なクレームや嫌がらせのような行為については、速やかに教育委員会や警察などの関係機関に引き継ぐことができるよう、対応の流れを明確にしておくことが重要であると感じます。

【教育長】

東京都や水戸市など、カスハラ対応指針を示している自治体もございます。例えば、カスハラが始まって3回目からは教育委員会で対応し、4回目からは心理士やスクールソーシャルワーカーなどの福祉関係者が同席して対応するようにするなど、状況に応じて対応を変えていくような仕組みもあることから、そういういた他自治体の指針も参考にしながら考えていきたいと思っております。

【教育委員】

クレーム対応などを担任の先生が一人で抱え込まないことも大事だと思います。ベテランも若手の先生もいるなかで、経験の浅い先生にとっては精神的な負担が大きく、健康を害するおそれもあるため、学校内で情報を共有しながら対応することが重要です。場合によっては、地域や教育委員会も交えたケース会議を開くなど、みんなで受け止めるという仕組みづくりが必要です。共有してみんなで解決していくという雰囲気を学校全体で作っていっていただければと思います。

【教育委員】

学校に対する保護者などからのクレームの中には、改善のために受け止めるべきものもあるとは思います。ただやはり、教職員が一人で抱え込んだりせずに、情報共有しながら対応できるようにすることが大事だと思います。また、トラブルが起こる前に対応の基準を作つておくなど、準備できるところはできるだけ早く準備しておいていただければと思います。

私が教務主任として準要保護関係に関わっていた頃、はじめは基準なども曖昧な状態でしたが、途中から基準が明確化されて非常に助かった経験がありますので、クレーム対応やカスハラなどに対する明確な線引きを示してもらうと良いと思います。

3. 議題 ②小中学校の適正化について（説明）

教育部局より説明

3. 議題 ②小中学校の適正化について（意見交換）

【 教育委員 】

教育委員会や市が進めている取り組みが、市民に十分伝わっていないと感じます。情報発信のタイミングや方法を工夫し、よりわかりやすく周知していただきたいと思います。

中学校の一校化に関しても、新聞や広報紙の記事を見て、今そういうふうに動いているんだなと知った市民の方も多かったと思います。理解が進んだ一方で、もう少し先延ばしにしたほうがよいのではないかという声もあったりするなかで、引き続き丁寧な説明と周知をしていただきたいと思います。

【 教育長 】

市の学校適正化や統合の現状、児童生徒数の将来推計について、広報いたこの10月号で一面を使って周知を行いました。今後も小中学校の現状や一校化に向けた取り組み内容について、広くお知らせしていければと思います。

例えば、中学校一校化に関して検討委員会の委員長・副委員長から提出された要望書の内容や、それを踏まえての校地決定についても、広報紙などで周知していきたいと思っております。また、潮来一中と牛堀中、潮来小と津知小の統合に伴う閉校記念行事や式典が2月から3月に予定されており、これらの広報にも力を入れていきたいと考えております。

【 市長 】

学校の統合については、将来の人口推計を考えたときに、統合計画を作成しなければ前に進むことはできないということで、私が就任した当初から、当時の教育長のほうに計画作成について依頼させていただきました。およそ10年、統合の話し合いを続けてまいりましたが、統合準備委員会の方々が1年から2年の間に交代してしまったり、また、コロナの影響などもあって進行が遅れてしまいました。

当初の計画では、市の中心部に新たな学校を建設する想定でございましたが、児童生徒数のさらなる減少を踏まえ、既存の中学校に集約するという計画に作り直しました。日の出中、潮来一中、潮来二中など既存校の建設時期や耐用年数を考慮すると、新設するよりも今ある施設を活用するほうが合理的だと判断させていただいたというのが経緯でございます。

今後、市内の中学校はどこも100人程度と非常に小規模になることが想定されるなかで、この状況を長く放置するのは教育環境として好ましくないと考えております。財政的なことだけを考えると、人件費は県費により運営できますし、スクールバスを新たに走らせる必要もないため、統合しないほうが市にとって負担が少ないという見方もできます。しかし、そのような教育環境が、本当に子どもたちにとって良いものなのかということで、第2期学校適正化計画では、できるだけ早期に統合を進める方針を決定させていただきました。

400人規模になるくらいまで待って既存校を使えばよいではないか、という意見も確かにございますが、少人数校を長く続けてしまうことが本当に子どもたちの教育にとって良いものだろうかということも考慮し、具体的な統合のスケジュールを決めさせていただきました。これは、これまで市民やPTAの方など多くの方が携わって決定したものですから、しっかりと

計画通りに進めていくことが正しい方向性であると考えております。

統合先の校地についてはまだ決定しておりませんが、検討委員会では潮来二中が最も適当であるとの結論が出ております。これは PTA の方々や区長さんなど多様な関係者が話し合って、実際に学校を見て、子どもたちにとって最もよい環境だということで決定されたものであると思います。市としてはこの答申を受けて最終決定を行っていく予定です。

また、市役所庁舎をはじめ市の施設が老朽化しており、いずれ見直しが必要となります。そこで、今後の統合で生じる空き校舎を、市の施設として最大限有効活用していくことも考えていきたいと思います。利活用の内容を検討するうえでは、市民の方々のご意見を聞きながら、検討委員会などを設置し議論を進めていきたいと考えております。

【 教育委員 】

市や教育委員会がきちんと手順を踏んで計画を立てて、幅広く意見を聞きながら進める姿勢は正しいと思っております。一方で、その内容を地域の住民にいかにわかりやすく伝えていくことができるかが今後の課題だと感じています。

実際に区長として住民の声を聞くと、誤解や断片的な意見も多かったりして、情報がうまく伝わっていないなど感じることがあります。今後は、世代を問わず誰にでも理解できるよう、情報を噛み碎いたうえで周知することが重要だと考えております。

【 教育委員 】

子どもたちのことを考えると、統合したほうが良いと思いますが、統合後のクラス数や 1 クラスあたりの人数はどうなるのでしょうか。潮来一中ですと、昨年は 1 クラス 25 人ほどで学年だと 50 人くらいの生徒数でしたが、これが統合した後に何人くらいになるのでしょうか。

私の知り合いでも不登校のお子さんがおり、いじめではないようですが、原因がはっきりしないと聞いております。少人数により教員が丁寧に対応できれば、そうした不登校の子どもも減るのではないかという期待があります。統合によりクラス数が増えて、先生の数も必要になってくるかもしれません、先生が子ども一人ひとりに目を配れるくらいの規模にしingいただければと思います。

【 教育部局 】

統合後のクラス数につきまして、潮来第一中学校は、1 年生から 3 年生それぞれ 3 クラス、合計 9 クラスの構成となります。1 クラスの人数はおおむね 30 人から 40 人を想定しております。小学校につきましては、潮来小学校と津知小学校が統合した後の児童数が約 289 名となります。各学年 2 クラスずつ、全 12 クラスの学校となる予定です。

また、中学校一校化のほうですが、令和 11 年 4 月の生徒数は約 526 名を見込んでおり、各学年 5 クラスずつ、合計 15 クラスを想定しております。現在、小学校につきましては 35 人学級、中学校については 40 人学級というところですが、1 クラス当たりの人数を 35 人で計算すると 525 名となります。現在の潮来二中校舎の使用を想定した場合、5 クラスでの編成

を検討しているものでございます。

不登校の関係でございますが、潮来第一中学校には「校内フリースクール」が設置されており、通常学級での活動が難しい生徒が少人数で過ごしています。そこで生活を通じて学校に通う意欲を高め、他の生徒との交流を深めながら段階的に通常学級へ戻ることを目指しています。統合後もこの仕組みを引き続き活用していく方針です。

3. 議題 ③学力向上について（説明）

教育部局より説明

3. 議題 ③学力向上について（意見交換）

【教育委員】

私が教員だった頃は、校内暴力など子どもたちが教員に歯向かってくるような時代もありましたが、勉強の詰め込みが良くないということで「ゆとり教育」に変わって、それが一定の成果を上げた学校もありました。

私が中学校に勤めていたときに学んだのは、授業がしっかりと成立すれば生徒も落ち着くということです。やはり授業がまとまらなければ、子どもたちも面白くなくて暴れてしまったりということもありました。授業がきちんと成立すれば、子どもたちも集中して授業を受けられ、教職員も自信をもって授業ができます。それが学校全体の安定にもつながっていくだろうと常々感じておりました。

不登校の問題に対して即効性があるかはわかりませんが、子どもたちが「授業が楽しい」、「学校が楽しい」と思うことができれば、そこから知的好奇心も生まれ、学校生活の充実にもつながりますので、教員一人ひとりの授業力向上に継続的に取り組んでいただきたいと思います。

【教育委員】

教員の皆さんも一生懸命に準備して授業をされるのですが、45分授業でやっていたときも、前半に時間をかけすぎて、最後のまとめや定着のための時間が不足する尻切れとんぼの授業が多く印象があります。40分の授業で1単位時間の目標を達成するには、授業内容を相当吟味して構成しなければまとまらないのではと思いますが、45分授業と40分授業では、どのような違いがあるのか教えていただきたいと思います。

【教育部局】

やはりはじめのうちは、授業時間を45分でやっていたものを40分に短縮するということで、どの部分を削るか苦労があったと伺っております。5分短くするために、最初の導入部分を削るなど、子どもたちがしっかり学力を身につけるために、どこに重点を置くか考えながら工夫を重ねており、大学の先生を招いての授業研究なども行っております。

例えば、午前中に算数の授業を行う場合、その時間の中で適用問題ということで繰り返し問題を解くことが多いかと思いますが、「エビングハウスの忘却曲線」なども踏まえ、午後の

「つちっ子タイム」の時間を使って復習することで、時間をおくことで定着を図るような取り組みも行っております。

【 教育委員 】

授業の限られた時間の中で、子どもたちに何を身につけさせるかを明確にしたうえで授業を行わないと、あっという間に時間が過ぎるだけになってしまふような気がしますので、その辺もしっかり研究する必要があるのではないかでしょうか。

【 教育長 】

例えば、午前中の授業で課題が見つかったという場合、先生が必要と判断すれば、午後に20分間ある「つちっ子タイム」を使って復習や補充的な授業を行って対応しているのが現状でございます。

3. 議題 ④教員の働き方改革について（説明）

教育部局より説明

3. 議題 ④教員の働き方改革について（意見交換）

【 教育委員 】

「潮来市スポーツカルチャークラブ」というのは、各部活動ごとに独立したクラブを設置するのか、それとも、より大きな組織単位があってその中に複数のグループが含まれる形になるのかを教えていただきたいと思います。

【 教育部局 】

スポーツカルチャークラブは、各部活動ごとに設けるのではなく、大きく一つの組織として設置していく予定です。そのうえでの役割としては、人材バンクに登録された指導者と各部活動とのコーディネートを行うことや、運動場などの活動場所の手配など、そういったところについてこれから調整してまいりたいと考えております。

【 教育委員 】

公民館活動をはじめとする各種活動では、現在活動しているメンバーの高齢化が進み、後継者が見つからない活動も出てきております。若い人にもっと参加してほしいと考えているところもあり、そういった既存のクラブや活動と若い人たちをつなぐようなコーディネート的な役割を果たしてほしいということも思いました。すでに地域内には多様な活動がありますので、それらの活動と結び付けられれば、既存の活動もさらに活発になり、後継者不足の解消にもつながるのではないかと考えられますので、その辺も検討いただければと思います。

【 教育部局 】

地域おこし協力隊の募集なども検討しており、今後も積極的に取り組んでいきたいと考え

ております。

【 教育委員 】

コーディネート的な役割についてのお話がございました。例えば、市役所内でも様々な部署がありますが、アンケート調査や会議への出欠確認の方法など、部署によって取り組み状況にはばらつきがあるため、部門横断的にコーディネートしてくれる部署があると良いのではないかと感じました。

また、国勢調査に関わらせていただいて思ったことですが、私の地区では駐在さんが戸別訪問して、「何人家族ですか」など一軒ずつ聞いて回ってくれることがあります。例えば、国勢調査と、この駐在さんが確認している情報を突き合わせられるような仕組みがあれば、事務の効率化ができるのではないかでしょうか。そして、こうしたデータや活動をまとめて調整するコーディネーター的役割の人や部署があつたりすれば、負担軽減や経費削減にもつながるものと思いました。

【 事務局 】

企画政策課は、以前、企画調整課という課名のときもございました。本日、総合計画に基づいた主要事業について一部ご説明させていただきましたが、今後は、こういった事業の進捗管理だけでなく、庁内全体を見渡しながら部署間をつなぐコーディネーターとしての役割も果たしていければと感じました。

【 教育委員 】

教職員の働き方改革についてですが、先月、牛堀小学校の指導発表会を行った際、校内の草刈りがとても綺麗にされていたのでお話を伺ったところ、先生方は年に5回から6回草刈りをされていて、その作業負担でとてもご苦労されているということでした。

私自身も年2回ほど小中学校の草刈りに参加させていただいております。PTAも協力して行っておりますが、回数を重ねるごとに参加者が減っている状況です。PTA OBや卒業生などにも協力を呼びかけるようにするなど、先生方の負担軽減につながる対策について検討をお願いしたいと思います。

【 教育部局 】

学校施設の管理については、校長先生や教頭先生を中心に行っていただいているかと思いますが、今年の夏は暑さが厳しかったこともあり、雑草の伸びが激しい状況であったため、学校では非常に大変な思いをされたと思います。PTAのほうからも除草作業に関する要望をいただきなどしたことから、市では刈った草の運搬や処分などの支援を行っているところです。また、新たな取り組みといたしまして、来年度の用務員の募集にあたり業務内容を見直し、給食配膳業務に加え、除草作業など校内環境整備業務を新たに加えることで、学校支援の強化を図っております。

【 教育委員 】

私は退職校長会や退職公務員連盟の監事も務めており、学校から依頼があれば、草刈りや安全指導など、私たちのほうでも協力させていただきますとお伝えしているのですが、学校側からはなかなか要望が出てこない状況です。先生方が真面目で抱え込みがちという面もあるのかもしれません、こういった新たな取り組みによって、学校からもお願いしやすくなるような雰囲気が作られることが期待できますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

4. その他

なし

5. 閉会

企画政策課 課長補佐